

2021年2月23日  
神戸大学 海事博物館  
専門員 内田誠  
uchida@maritime.kobe-u.ac.jp  
078-431-6295

## 「進徳丸」について

2月5日にメールでご質問頂いた件、遅くなりましたが、以下の通り回答申し上げます。

問1. 「日本史上（国内建造）最大の帆装、4檣バーカンティーン型帆船」を簡単に解説してください。4檣バーカンティーン型帆船を教えてください。横帆1，縦帆3 を有する帆船と教えて戴きましたが、更に特記する特徴は？

この船を推薦する、一種のキャッチコピーとなる様なので。二つの下線部の意味合いの関係：  
4檣バーカンティーン型帆船 として 日本史上（国内建造）最大の帆装 という意味ですか？

## 回答

参考（ファイル別添、ファイル中、赤線囲み部分）

帆船図説\_抜粋.pdf

進徳丸史\_抜粋.pdf

「練習船進徳丸史」余滴\_杉浦昭典\_1989 海事資料館年報.pdf

「練習船進徳丸史」余滴(2)\_杉浦昭典\_1990 海事資料館年報.pdf

世界の保存艦船@船の雑誌.pdf

日本丸・海王丸\_抜粋.pdf

### 1-1) 帆船の形式

4 檣 : マストが4本、進徳丸（神戸高等商船学校練習船）、大成丸（東京高等商船学校練習船）、日本丸・海王丸（初代、2代目）、すべてが該当

Barquentine : 前檣だけが横帆で、あとは全て縦帆艤装

進徳丸

霧島丸（鹿児島商船学校練習船）

<https://www.jasnaoe.or.jp/mailnews/west/079/article01.html>

[https://www.zensenkyo.com/\\_bk/kaiho/96kaiho/kirishimamaru/kirishimamaruhouan.html](https://www.zensenkyo.com/_bk/kaiho/96kaiho/kirishimamaru/kirishimamaruhouan.html)

Barque : 最後檣だけが縦帆で、あとは全て横帆艤装

大成丸、日本丸、海王丸

### 1-2) 進徳丸に4檣バーカンティーン型帆船が採用された経緯

建造計画が議論された頃、練習船として帆船無用論による汽船建造の提案もあった。建造具

体化において、「帆船」でもより近代化され、ふんだんに汽船的要素を取り入れられたと見なされる。商用帆船として最大限の効果を発揮するようできる限り大きく作られた。なお、Barquentine は、縦帆が主のため、Yard（横帆の帆桁＝円材）上での展帆、縮帆（強風対応）作業が少なく、少ない船員で繰帆が可能であり、また、風上への切り上がり性能が優れていることから、商用帆船に多く採用されていた。

進徳丸の Boom Sail（ブームスル：縦帆）は建造当初、上下二分割であったが、繰帆の際の安全性を確保するため、比較的早い時期に下段の帆を二分割して Gaff（縦帆の上辺を取り付ける円材）を固定する（縮帆の際に上下移動させない）改装（上下三分割化）が行われた。

### 1-3) 日本史上（国内建造）最大の帆装および関連するエピソード

	マスト高（水面上）	総帆面積
進徳丸	182 ft (55.47 m)	811 坪 (2,681 m <sup>2</sup> )
日本丸（二代目）	48.45 m	2,760 m <sup>2</sup>

進徳丸と日本丸（4 檣バークでは、日本史上最大：マスト高、総帆面積、総トン数、全て）では帆船の形式が異なるので帆面積の比較ではなく、マスト（帆柱）高さで比較し、進徳丸を「日本史上（国内建造）最大の帆装」と表現している。

第一五次遠洋航海（S6.12.2・7.4.26、神戸ーシドニーーポナペー神戸）でシドニー寄港の際、竣工直後、開通直前のシドニー湾ハーバーブリッジ（桁下水面上約 52m）は「どんな船でも通してみせる（豪州当局）」と豪語していたものの、進徳丸のマストが 4m 程度高く、マストを少し切り縮めて橋下を潜ることになったとかならぬとか、当時、話題になったとのこと。（どうも、橋の手前の栈橋に接岸したようである。）

問 2. 進徳丸模型は、精密で重要な資料になりますが、いつ頃に製作された模型でしょうか。

回答

#### 2) 進徳丸模型船 [http://www.museum.maritime.kobe-u.ac.jp/shiryou\\_det.cgi?shiryou\\_no=302](http://www.museum.maritime.kobe-u.ac.jp/shiryou_det.cgi?shiryou_no=302)

昭和 45 年 3 月末に卒業生から寄贈されました。

近年では、総合学術交流棟 1 階の玄関ホールに長らく展示されていたところ、船殻にひびが入り始め、帆や索具もボロボロになりかけ、痛みがとても激しくなっていました。平成 21 年に神戸市北区在住の木下正美氏に船体を含む大がかりな修復を依頼し、修復後の平成 23 年 8 月 23 日に、木下正美氏から修復寄贈されました。（海事博物館研究年報 2011・No.39 pp.36）

海事博物館事務室奥に収蔵の海事参考館から海事資料館時代の台帳の中から、「海事参考館 甲 昭和 45 年迄」という台帳の 124 頁に「45.3.31 進徳丸の模型」の項があり

摘要 No.10 物品番号 46 縮尺 1/100 木製進徳丸模型

全長 143 高（帆柱共）80 300,000（円～受入れ評価額？）

No.623

宝塚 岩永道臣 寄贈

と、確認できました。

また、また神戸商船大学時代の海事資料館資料等に関するカードボックスの簡易なカードの記載事項から

623 イ-3-46 進徳丸（第一世）模型

卒業生有志寄贈

と、確認できました。

岩永道臣先生（故人）は神戸高等商船学校航海科 16 期生として昭和 8 年 12 月に卒業されました。また、練習船進徳丸史の乗船者名簿から、第一五次遠洋航海（S6.12.2 - 7.4.26、神戸ーシドニーーポナペー神戸）および第一六次遠洋航海（S7.7.6 - 7.9.28、神戸ーヒロー神戸）に実習生として乗船されたことが確認できます。（学生時代は、「松裏」姓でした。）

岩永先生が中心となって卒業生（進徳丸乗船者）に呼び掛け、母校に寄贈されたものと拝察されます。

岩永先生は、神戸商船大学教授を退官された後、大島商船高等専門学校の第二代校長（S50.4..1 - 58.3.31）を歴任されました。

以上、ご査収頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。